

儀礼における民間信仰の実践とアイデンティティに関する考察
—雲南省摩梭 (モソ) 人の「成丁礼」を中心に—

金縄 初美
西南学院大学

今日の大きな社会変化のなか、民族社会あるいは地域で継承されてきた文化はいかに民族的アイデンティティと形成するのかという問題は、複雑な社会のなかでの民族文化の今後のあり方や多元性を考えるうえで重要な課題となるであろう。

本報告では、儀礼のなかでも人生の節目を象徴するものであり、節目による変化を社会や共同体が認識するための役割を有し、民族としてのアイデンティティとも深い関係性をもつ「通過儀礼」に焦点をあて、通過儀礼の変容と民族的アイデンティティとの関連性について考察する。なかでも、雲南省に居住する摩梭人社会において重視されてきた通過儀礼の一つである「成丁礼」を取り上げ、具体的に分析したい。

摩梭人においては、子供が 13 歳になる年の正月に「成丁礼」が執り行われる。母系血縁を基礎とする家族を中心に実施され、摩梭人の民族信仰である達巴教の達巴とチベット仏教の喇嘛による読経、及び各家庭の母屋内で行われる祖先崇拜や「穿裙子礼 (ズボンを穿く儀式)」「穿裤子礼 (スカートを穿く儀式)」儀式などを通じて、子どもが成人し、家族の一員になることを祝福する。「成丁礼」で念じられる経典内容と儀礼に携わる人々の関係性からみると、「成丁礼」には家族の継承や成人としての行動に関する教育的役割も担っていることが分かり、人生の中で重要と考えられる思想や道徳を考察することができる。

近年の社会変化に目を向けると、摩梭人の「成丁礼」は、儀礼の継承とともに、民間信仰や民族言語の継承としても重要な役割が付与され、社会における役割は多元化している。2019 年に実施したフィールドワークにおいて、「成丁礼」は摩梭人独自の文化として重要な役割をもち、現地に建設された「摩梭民俗博物館」などで儀礼の一部を再現し、外部の希望者に「成丁式」への参加を募集する試みが行われていることが分かった。この実践から「成丁礼」は家族単位で行われる儀礼でありながらも、民族文化としての発展が期待され、他者との関わりのなかで民族的アイデンティティとの関連が深まっていることを見出すことができる。

よって、本報告では「成丁礼」で読まれる達巴経や歌謡、及び儀礼実践を詳細に分析し、「成丁礼」の伝統的意義と役割を明らかにし、さらに今日の社会変化や家族の多様化にとまない儀礼がいかに変容していくかを動的に捉えることにより、儀礼の伝統と再構築の様相、及びアイデンティティとの関連について検討したい。